

靴は入船で脱ぎ出船に揃える

。お客様のお宅を訪問した時、老人ホームなどの介護施設に訪問した時等、玄関で靴を脱ぐときの作法について紹介します。

靴を脱ぐ時は、家人や施設の方にお尻を向けないように、相手の方を向いて靴を脱ぎます。これを入船で脱ぐ(船が入港する時のように、つま先を家の中に向けて)と言います。次に、靴を出船の方向(船が出航する時のように、つま先を外に向けて)に向きを変えて、端の方に揃えて置きます。端の方に置くのは、家人や他の方が来られた時に、邪魔にならないように配慮するものです。

「靴は入船で脱ぎ、出船に揃える」が、正しい作法です。

この作法は、戦国時代の茶室の作法からきたものです。

茶室の入り口は、躡口(にじりぐち)といい高さ・幅60cm四方ぐらいで、屈まないと出入りできないようなもので、地位・身分の高い人も頭を下げて入らなければいけない、武士は刀を入口で外さないと入れないほど小さなものでした。

茶室の中では身分の差はなく平等であるという考えからだったそうです。このような小さな入口ですから、何か事が起きた時にすぐに履物をはいて外に出られるよう、履物は出船で揃えるようになったそうです。

その作法を、私たちは脈々と受け継いでいるのです。

ただし高齢の方などと一緒に行動する際、玄関の下駄箱や手すりなどにつかまって靴の脱ぎ履きをされる場合は、靴の向きよりも、その方の安全を最優先に、どのようにすれば靴の脱ぎ履きをしやすいかを確認してサポートをしてあげてくださいね。



垣内 イスズ

